



# 協造日報 広報

www.jalc.or.jp

第 442 号

2011 年 1 月 1 日

## 新春特別号

「次代の造園の夢を語る」  
若手経営者の取り組みと日造協への期待

発行/社団法人日本造園建設業協会 (Japan Landscape Contractors Association) 創刊/昭和 49 年 6 月 1 日 〒 113-0033 東京都文京区本郷 2-17-17 井門本郷ビル 2 階 TEL03 (5684) 0011 FAX03 (5684) 0012



府馬の大クス 国指定天然記念物 (大正 15 年)、環境省かおり風景 100 選 (平成 13 年)、所在地:宇賀神社 (千葉県香取市府馬 2395 番地)、樹種:タブノキ、樹高:20 m、根廻り周囲:約 27.5 m。指定樹種名と実物の樹種名が異なっていることで有名です。樹齢は 1300 年以上、小さなお社が祀られている境内一面を枝が覆い、タブノキ特有の香りが漂います。根は隆起し、幹は凸凹が多く、枝張り約 18 m にもおよび国内最大級のタブノキです。(千葉県支部長 望月勝保)

# 謹賀新年 2011 年 辛卯

(社)日本造園建設業協会

会長 藤巻 司郎

年頭にあたって

輝く造園の未来を目指して



新年明けましておめでとうございます。  
皆様におかれましては新しい年を  
各々の地域の慣習に習いお迎えにな  
られた事と思います。

昨年伺った近畿総支部での本部・  
支部意見交換では、その土地ならで  
はの様子を直に肌で感じ、本部とし  
て厳しいご意見も頂きながらも会員  
の皆様の温かい心に触れる事が出来  
たと思っております。

素晴らしい未来の到来を想起させ  
た 21 世紀を迎え早いもので 10 年が経  
過しました。環境の世紀とも言われ  
るこの時、昨年 10 月に日本がホスト  
国となり名古屋で生物多様性条約第  
10 回締約国会議 (COP10) が開催  
されました。この会議において遺伝  
資源へのアクセスと利益配分 (A B  
S) に関する「名古屋議定書」と、  
2011 年以降の新戦略計画「愛知  
目標」が採択され、参加国からホス  
ト国のとりまとめ努力に対して高い  
評価が示されました。

アジア諸国では急速な経済成長に  
より、かつての勢いを失ったかに見  
える現在の日本ですが、環境分野で  
は世界を牽引するような活躍が期待  
されています。

ユーラシア大陸の東端に位置する  
日本は、「日出する国」と美称され  
るように朝日が最初にあたる光輝く  
国であり、南北に長い地形による四  
季の変化と、四方を海に囲まれた気  
候条件などによって降雨量が多いこ  
とから、世界でも有数の多様な植物  
が見られる国でもあります。

緑豊かで美しい自然とともに暮ら  
してきた私たちには、四季の移ろい  
や自然の美に対する繊細な感受性が  
育まれ、自然に対する畏怖の念を持  
ちながら共存することで暮らしの場  
を作り上げてきました。

それが、世界に誇る伝統的な日本  
庭園を創りあげてきた造園のものづ  
くりの原点になっています。我々は  
様々な機会を捉え、植物をはじめ多  
くの自然素材を巧みに組み合わせた  
景観を創造することが、広くは地球  
環境にまで関わる造園建設業の事業  
領域と規模を大きく広げてゆくと信  
じています。

俯いて足元を見るだけではなく視  
線を前方に向け、その先に輝いてい  
る造園の未来を皆様と一緒に目指す  
ことに全力を注いでまいりますの  
で、本年もよろしくお願いいたしま  
す。



# を語る」課題と展望 経営者の取り組みと日造協への期待



藤巻会長、鈴木広報部長には、適宜、コメントをいただきたいながら、この座談会を進めさせていただきたい。

藤巻会長、鈴木広報部長には、適宜、コメントをいただきたいながら、この座談会を進めさせていただきたい。

藤巻会長、鈴木広報部長には、適宜、コメントをいただきたいながら、この座談会を進めさせていただきたい。



高梨 雅明氏 (社)日本造園建設業協会 常任顧問

高梨 雅明氏 (社)日本造園建設業協会 常任顧問



成家 岳氏 (株)富士植木 取締役副社長

成家 岳氏 (株)富士植木 取締役副社長

向についてお聞きすると、次に、次代の造園業界に抱いている夢や抱負、その実現に向けた取り組みについて大いに語っていただきたい。また日造協への期待についてもご意見を伺いたい。

四宮 当社のことだけに、現場は随分と変化してきている。公園整備は少なく、維持管理業務がメインとなり、木を植え、石を据える仕事が減り、草刈などが中心の作業になっている。

このため、若い人に造園の魅力、面白さを伝えるのは難しい。指導の場となる現場も少なく、技術、技能を伝えることができないのが一番の問題で、今後の課題と言える。

また、環境の時代で、造園は追い風と言われるが、他業種と比べ、こうした時代のキーワードをうまく捉えきれないように思う。

いろいろな業界やNPO、市民が、環境を掲げ、展開する中で、造園業界も積極的にPRし、時代の流れに乗っていくことも大切なことではないか。

成家 仕事量の減少はある程度、仕方がないと思ってるのか、どうしても低価格過ぎがいのある業界にできるのかを考えると、厳しい状況だが、気持ちよく、気持よくと繋がっていく。

高梨 課題や問題点の解決にむけて、具体的に取り組みでいることはありますか？

藤田 頭ごなしに、「やれ」と言われると、誰しも面白くないが、興味のあること、自らやってみようという気持ちになり、意欲も湧く。すぐに仕事に結びつかなくてもいい。土に興味があり、微生物で何かできないかなど、興味のあるところでやっていくと、不思議と繋がっていく。

高梨 街路樹剪定士は、技術だけでなく多様なツールとして機能しているとの話が出ました。この制度の企画から立ち上げに、関わっていただいた藤巻会長としては、どのように思われますか？

## 街路樹剪定士やCPDの活用を

高梨 街路樹剪定士やCPDの活用を

高梨 まずは、造園業界の課題、問題点についてお聞かせください。

四宮 当社のことだけに、現場は随分と変化してきている。公園整備は少なく、維持管理業務がメインとなり、木を植え、石を据える仕事が減り、草刈などが中心の作業になっている。

このため、若い人に造園の魅力、面白さを伝えるのは難しい。指導の場となる現場も少なく、技術、技能を伝えることができないのが一番の問題で、今後の課題と言える。

また、環境の時代で、造園は追い風と言われるが、他業種と比べ、こうした時代のキーワードをうまく捉えきれないように思う。

いろいろな業界やNPO、市民が、環境を掲げ、展開する中で、造園業界も積極的にPRし、時代の流れに乗っていくことも大切なことではないか。

成家 仕事量の減少はある程度、仕方がないと思ってるのか、どうしても低価格過ぎがいのある業界にできるのかを考えると、厳しい状況だが、気持ちよく、気持よくと繋がっていく。

高梨 課題や問題点の解決にむけて、具体的に取り組みでいることはありますか？

藤田 頭ごなしに、「やれ」と言われると、誰しも面白くないが、興味のあること、自らやってみようという気持ちになり、意欲も湧く。すぐに仕事に結びつかなくてもいい。土に興味があり、微生物で何かできないかなど、興味のあるところでやっていくと、不思議と繋がっていく。

高梨 街路樹剪定士は、技術だけでなく多様なツールとして機能しているとの話が出ました。この制度の企画から立ち上げに、関わっていただいた藤巻会長としては、どのように思われますか？

藤巻会長、鈴木広報部長には、適宜、コメントをいただきたいながら、この座談会を進めさせていただきたい。

高梨 雅明氏 (社)日本造園建設業協会 常任顧問

高梨 雅明氏 (社)日本造園建設業協会 常任顧問

高梨 雅明氏 (社)日本造園建設業協会 常任顧問

高梨 雅明氏 (社)日本造園建設業協会 常任顧問

高梨 雅明氏 (社)日本造園建設業協会 常任顧問

高梨 雅明氏 (社)日本造園建設業協会 常任顧問

高梨 雅明氏 (社)日本造園建設業協会 常任顧問

高梨 雅明氏 (社)日本造園建設業協会 常任顧問

北海道	渡部 佐知	北野 幸吉	江口 浩市	渡邊 宣昭	浦井 史郎	山本 一隆	丸山 寿太郎	丸岡 宏昇	正本 大	初谷 雄一	西岸 芳二	新美 芳二	富田 祐次	高橋 一輔	須磨 佳津江	杉本 正美	下平 浩之	櫻井 正昭	坂上 信明	酒井 一江	近藤 公夫	能谷 洋一	久保 和男	木上 正貢	鬼頭 慎一	加勢 充晴	小川 陽一	奥本 寛	大塚 貞保	大塚 守康	大塚 嘉七	梅川 真澄	伊藤 啓造	磯部 英昌	磯部 久人
東北	渡部 佐知	北野 幸吉	江口 浩市	渡邊 宣昭	浦井 史郎	山本 一隆	丸山 寿太郎	丸岡 宏昇	正本 大	初谷 雄一	西岸 芳二	新美 芳二	富田 祐次	高橋 一輔	須磨 佳津江	杉本 正美	下平 浩之	櫻井 正昭	坂上 信明	酒井 一江	近藤 公夫	能谷 洋一	久保 和男	木上 正貢	鬼頭 慎一	加勢 充晴	小川 陽一	奥本 寛	大塚 貞保	大塚 守康	大塚 嘉七	梅川 真澄	伊藤 啓造	磯部 英昌	磯部 久人

賀春  
社団法人 日本造園建設業協会



春会 新座談

「次代の造園の夢」 造園業界の将来を背負って立つ若手

ては、国家資格とまではい... かなくてもそれに準ずる機... 関の資格であった方がいい... という声もあった。しかし、... この頃はすでに、国が資格... をつくり、与える時代では... なく、自らがその技術を確... 立し、運営していく時代に... 変化していった。

こうしたことから、日造... 協が認定する資格となっ... た。制度創設の根底には、... 緑は育成管理が必要で、い... つまでも整備が続くわけ... はなく、今で言う「ストッ... クの活用」、管理が重要に... なる時代に備えようとい... う見があった。

そこで、これから必要と... なる資質として、街路樹剪... 定士が考えられ、現在の形... になった。資格による技術... の担保やこれによる業界の... 受注確保、営業ツールまで... は想定していたが、仲間... くりのツールまでは意識し... ていなかった。

また、こうした考えは、... 誰か一人が考えたというも... のではなく、いろいろな... 人との交流、コミュニケーション... ションを重ねた中で出てき... たものであり、意識的に動... いていくことは大切だ。

造園業の将来 これからの夢... 高梨 今後は、次代を担う... 若い経営者の方々が、将来... を予見し新たな取組みを進... めていくことが重要になる... と思う。造園業界の将来... これからの夢についてはど... うですか？

成家 夢というより、漠然... とした将来像として、造園... の先祖帰りもありだと思... う。管理から一歩進んだと... いわれる指定管理者にして... も、昔の出入りの植木屋の... ようなものであり、施主さ... んからの信用で、自らの技... 術、経験を発揮して、現場... を最良の状態にするとい... うのは、同じことだ。

最近でこそ、提案型と言... われるが、これまでの公共... に関する業務は、その通り... にこなすことが、最も重要... とされてきた。しかし、こ... れからは専門家としての知... 見を最大限に発揮してい... ことが不可欠で、そうした... こと、専門家としての存在... 意義がなくなってしまう。

指定管理者ではないが、... 当社が常駐している緑地... で、鬱蒼とした樹木の剪定... を行った。すると、怖くて... 夜は通れなかったが、公園... を通れるようになった、明... るくなって良かったとの声... が聞こえてきた。

代へと転換している。... このように指定管理者を... はじめとする民間による管... 理運営は、社会の要請であ... るとともに、社員にとって... 十分にやりがいのある業務... となり、利用者の方々とコ... ミュニケーションをとる機... 会も増え、造園のアピール... を行う格好の機会になる。

利用者の声や意見を反... 映させて、リニューアルや新... たな公園整備につなげてい... くことも可能... であり、双方... 向の柔軟な発... 想をしていく... ことで、造園... の新たな体制... がつくられて... いくのではな... いかと思っ



氏 匡 (株庭樹園) 代表取締役

向の柔軟な発... 想をしていく... ことで、造園... の新たな体制... がつくられて... いくのではな... いかと思っ

いかと思っ... ている。... 影響開発」をベースに仕... 事ができた。... 次に何をすることも考えて... いるが、特別な新技術を開... 発した訳ではない。既存の... 造園技術やノウハウだけで... も使えるものは多い。

私個人、もつと社会の緑... に貢献しているという実感... がほしいと思っ... ている。... 最近考えているのは、現在... とても自慢できない、地元... 大阪の街路樹を、美しくし... ていきたい、ということ... それを私のライフワークと... 整備から管理がメインの時

新たな市場を開ける造園技術

新しい市場を切り開くこ... とはできる。... そうはいっても、日本の... 経済力が弱まり、公園緑地... の基盤もできると、これま... でと同じような仕事量は期... 待できず、何もしないとい... うわけにはいかない。

一方、これから経済力... が高まっていく、これまで... 緑化事業に取り組み余裕が... なかった国々が、環境整備... に取り組み始める。さまざま... に病院の施設などで園芸療... 法を取り入れ... られている

藤田 発表会で紹介させて... いただいた通り、一昨年... は「大雨にも流されない芝... 生」、今年は「LID(低... 化」、今年



氏 良司 (株九州造園) 代表取締役

取り入れる素... 地がある。こ... うした部分に... 我々が入りや... られている

まに進化した日本の緑に関... する技術は、こうした国々... で渴望されており、日本に... 優れた環境技術があること... すら知らない国々も、その... 時が来れば、必ずや取り入... れたいと思っ... ている。

経済学の論理で、力の強... いところ、競争の激しいと... ころで争うのは合理的では... なく、日本で競うより、こ... れからの新興国に目を向け... ることも意識の1つであ... り、1社では大変なので、... 一緒に取り組んでいける仲... 間がいたら、海外にも出て... いくと思っ... ている。

我々の業界は、まだまだ... その可能性の扉を開いてお... らず、むしろこれからだ... 藤田 先日、テレビで、高... 齢者の福祉施設を取り上げ... ていたが、その運営者は、... バリアフリーではなく、「バ... リアアリー」と言っていた。

まさに発想の転換であ... り、公園は安全安心が掲げ... られているが、スリルのあ... る公園も作ってみたい。危... 険なこと、スリルがあるも... のは楽しく、公の空間で、... スリルを前面に出すのは難... しいが、子どもたちに大う... けすると思う。

成家 少々危険な体験か... ら、大げが回避する力を... 得るのだと思うし、そうし... たことを寛容に受け入れる... 社会も必要ではある。

藤巻 公園で遊び、服が汚... れていると、子どもをしか... けすると思う。

加勢 久人 充晴 磯部 大島 坂上 信明 嘉七 信大 慎一 正貢 浩之

北陸 加勢 久人 充晴 磯部 大島 坂上 信明 嘉七 信大 慎一 正貢 浩之

近畿 坂上 信明 嘉七 信大 慎一 正貢 浩之

中部 坂上 信明 嘉七 信大 慎一 正貢 浩之

北陸 加勢 久人 充晴 磯部 大島 坂上 信明 嘉七 信大 慎一 正貢 浩之

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

北海道 菅本 山内 阿部 米内 岩手 宮城 秋田 山形 福島 茨城 栃木 群馬 埼玉 千葉 東京 神奈川 山梨 長野 新潟 富山 石川 岐阜 静岡 愛知 三重 福井 滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山 岡山 広島 鳥取 島根 山口 徳島 香川 高知 愛媛 福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄

